令和6年度 事業報告書

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

公益財団法人 仏教伝道協会

公益財団法人仏教伝道協会 令和6年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

については、定款に定める事業に沿って「令和6年度事業報告」を致します。

令和6年4月1日より令和7年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告（公1）

1. 趣旨（目的）まとめた理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等いろいろな支援事業を通して、世界中の一人でも多くの人に仏教を理解して頂き、豊かな人間性を育て、より良い社会の形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であり、下記の2-1) から2-3) までの事業はつながりのあることから一つにまとめている。

2. 事業

2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

1. 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に仏教思想を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳を進めている。令和6年度は、令和5年度に改訂を終えた『和文仏教聖典・改訂B6判』に基づき『和文仏教聖典・改訂A6判』『和文仏教聖典普及版・改訂B6判』『和文仏教聖典普及版・改訂A6判』『電子書籍版・和文仏教聖典』を刊行した。

その他令和5年版に則して『モンゴル文字モンゴル語仏教聖典』の改訂を終了し、モンゴル国にて出版した。

◇「仏教聖典」のホテル普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動を推進し、国内のホテル14軒、海外のホテル18軒より新規申し込みを受けた。

新規・補充を合わせた日本からの令和6年度の寄贈冊数は、国内3,621冊、海外2,149冊であった。海外協力機関からの寄贈も含めたホテル累計寄贈数は64カ国、15,867軒・4,183,512冊に至った。

◇聖典ボランティアによるホテルへの寄贈活動の促進について

地域に根差した布教活動を実施している僧侶・寺族の方がたに「聖典ボランティア」（仏教聖典のホテルへの寄贈活動の支援者）として参画をお願いしている。

令和6年度末現在、登録僧侶は93名。令和6年度の国内ホテル寄贈のうち、新規ホテル7軒290冊、補充ホテル8軒400冊がボランティアの実績である。

◇「仏教聖典」の教育機関等への普及について

仏教的情操教育を推進するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、令和6年度、大学・短期大学72校、中学校・高等学校88校、保育施設894園を中心に行い、総計で25,249冊を寄贈した。平成24年度からの頒布開始以来、13年間の寄贈数累計は約546,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約70%に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として11,836冊販売した。

◇インターネットでの「仏教聖典」頒布について

より多くの方がたに、母語で仏教聖典に触れていただくために平成31年3月より各国語仏教聖典のPDFデータをホームページに掲載し、全世界からのダウンロードが可能となった。令和6年度も世界84ヶ国からさまざまな言語の聖典が9,734件ダウンロードされ、これまでの総ダウンロード数は39,386件となった。

また令和6年度は「仏教聖典」電子書籍版236冊、オーディオ版「仏教聖典」25冊を販売した。

◇「仏教聖典」のブータン王国への頒布について

令和6年4月23日、ブータン王国首都ティンブーのTara Phendlyling Hotelに於いて「『ゾンカ語仏教聖典』贈呈式」を挙行し、これにより『ゾンカ語仏教聖典』10,000冊を正式に寄贈、学校・寺院等に配布した。また現地からの要望により、追加として『英文仏教聖典』2,400冊を寄贈した。

◇「仏教聖典」のモンゴル国への頒布について

桜美林大学教授 都馬バイカル氏の協力により『モンゴル文字モンゴル語仏教聖典』10,000冊をモンゴル国にて印刷し、モンゴル国図書館・寺院・ホテル等に頒布した。また2025年3月にモンゴル国立教育大学にて図書館関係者への贈呈式が行われた。

◇『さとの知恵を読むー仏教聖典副読本』頒布について

大学・高校等の教育現場で好評な『さとの知恵を読むー仏教聖典副読本』の普及活動を行い、令和6年度は18,337冊を寄贈した。平成28年度からの頒布開始以来、教育機関への9年間の寄贈数累計は約232,000冊に達した。また全国寺院や書店などに1,755冊を販売した。

◇『ブッダのおしえ』普及について

『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブッダのおしえ』は、外国人観光客に日本仏教を紹介するツールとして好評を博している。令和6年度は全国の有名観光寺院やミュージアムを中心に、日本語版約35,000冊、各国語版約20,000冊を寄贈した他に、日本語版・英語版合計で約4,500冊を販売、合計59,795冊を頒布した。

また、BDK Americaにて英語版 10,400冊を印刷・頒布した。
平成23年からの累計寄贈冊数は海外印刷分を含め約1,394,000冊となった。

2. 英訳大蔵經の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髓を理解していただくため、「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵經』の英訳刊行事業を当協会と米国仏教伝道協会の共同事業として、第1期分139典籍の刊行を進めている。

令和6年度は『妙法蓮華經玄義』『三教指歸』等の翻訳を受領した。

また『十住毘婆沙論(1)』を2月に刊行した。

現在までに部分受領典籍を含めた97典籍を71巻の「英訳大蔵經」として出版し、20典籍が翻訳進行中である。

◇「英訳大蔵經」テキストTEI化について

TEI(Text Encoding Initiative)とは人文学資料デジタル化の世界基準で、テキストのメタデータをインターネットで効率的に共有する規格である。この基準に準拠した英訳大蔵經のデータ作成を行うため、SAT大蔵經テキストデータベース研究会、人文情報学研究所の協力のもと作業を進めている。令和6年度は『立正安國論』『六祖大師法宝壇經』等5典籍のTEI化を終了した。

3. その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

◇「一日一訓カレンダー」と解説書「みちしるべ」普及について

仏教の精神文化の裾野を広げるため「一日一訓カレンダー」とその解説書を制作、全国の寺院、学校、保育園等に頒布している。

令和6年度は、「一日一訓カレンダー」六波羅蜜シリーズ5冊目の『禪定』を刊行。125,000部を頒布した。また、カレンダー解説書—みちしるべ『禪定—思いを静める—』（執筆者 大谷哲夫氏、倉松俊弘氏、吉水岳彦氏）を教化教材として刊行し、約29,000冊を全国の寺院に頒布した。

◇『禪僧は語る』発刊について

仏教伝道協会設立60周年に先立ち、みちしるべ特別編として『禪僧は語る』を令和7年2月に刊行した。さまざまな禅語をキーワードにした法話集であり、曹洞宗、臨済宗、黄檗宗の僧侶たちが執筆している。主に寺院などに約18,000部を頒布した。

◇「一日一訓カレンダー」フォトコンテスト及び写真展について

写真を通してより多くの人びとに仏教に親しんでいただくため、「2026年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「第11回フォトコンテスト—ほとけの心」を開催した。令和6年1月から令和6年8月末までの応募期間中に731件2939枚(過去最多)が集まり、令和6年9月17日にカレンダーフォトコンテスト選考委員会を開催。厳正な審査の上、入選作品32点を選定した。入選作品を掲載したカレンダーは令和7年7月上旬発行予定。

また「第10回フォトコンテスト入選作品の写真展」を宮城の瑞巖寺(令和6年4月12日-6月10日)、京都の平等院(令和6年6月14日-9月8日)、東京の築地本願寺(令和6年9月13日-11月7日)にて開催した。

平等院の写真展では、開催期間中の6月27日に人形劇演者・研究者の瀧見英明氏による人形劇を開催し、宇治市の私立幼稚園2園（40名）を招待した。翌6月28日、カレンダーの文言の揮毫を依頼している書家 鈴木猛利氏による「書道パフォーマンス」を昨年度に続き披露した。

令和6年度は3会場合わせて期間中、72万4778人の観光客が来場、入選写真と文言の書を鑑賞した。

◇「こころの絵本シリーズ」読み聞かせ映像YouTube公開について

合計発行部数 23万部以上となった「こころの絵本シリーズ」を、より多くの方がたに知っていただくため、読み聞かせの映像をYouTubeに公開した。令和6年度は『がまぐちさん』を公開した。

◇『とってもやさしい はじめての仏教』普及について

初心者向けに仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した冊子『とってもやさしい はじめての仏教』であるが、令和6年度は海外協力機関、寺院やミュージアム、観光案内所などに和文約22,000冊と、英訳版・中国語繁体字版・中国語簡体字版・スペイン語版 約20,000冊を寄贈した。また、日本語版 英語版3,200冊を販売、合計 45,370冊を頒布した。平成27年度からの累計頒布冊数は約944,000冊となった。また、日本語版・英語版の電子書籍を無償公開しているが、令和6年度には1,418件がダウンロードされ、累計ダウンロード数は12,093件となった。

2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

令和6年度はGao Mingyuan氏（コウ・ミンゲン氏、中国国籍、早稲田大学：令和5年度より継続2年目）、Jackson Cole Macor（メイコー・コール・ジャクソン氏、アメリカ国籍、駒沢大学）の2名に奨学金支給を実施した。

また、令和6年度は令和7年度奨学生募集のため、メール等を通じて海外の大学や研究機関を中心に留学生奨学金応募要項を送付し、またホームページでの一般公募に合わせて8名の応募があり、令和6年10月2日に開催された仏教学者からなる外国人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、Bo Pang氏（ポン・ハク氏、中国国籍、東京大学）、Amina Sabyr氏（アミナ・サビール氏、カザフスタン国籍、広島大学）の2名を選出した。

◇日本人留学生奨学金制度について

海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学ぶ、日本人の学者・研究者または学生に対して日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

令和6年度は中山慧輝氏（ドイツ・ライプツィヒ大学、3年留学）への2年目の奨学金支給を実施した。

また令和6年度は令和7年度奨学生募集のため、国内の大学や研究機関へ留学生奨

学 金 募 集 開 始 の ご 案 内 お よ び ポ ス タ ー を 約 230 通 送 付、ま た ホ ー ム ペ ー ジ で も 一 般 公 募 し、結 果 2 名 の 応 募 が あ り、令 和 6 年 10 月 2 日 に 開 催 さ れ た 仏 教 学 者 か ら な る 日 本 人 留 学 生 奨 学 金 審 査 委 員 会 の 公 正 な 審 査 に よ り、伊 集 院（加 納）葉 氏（オ ー ス ト リ ア ・ ウ ィ ー ン 大 学、6 ヶ 月 留 学）を 選 出 し た。

◇「奨学生交流会」開催について

来 日 中 の 外 国 人 奨 学 生 お よ び そ の 指 導 教 授、こ れ か ら 留 学 す る、ま た は 既 に 留 学 を 終 え 帰 国 し た 日 本 人 奨 学 生 な ど 開 催 時 に 日 本 に 滞 在 し て い る 奨 学 生（元 奨 学 生 を 含 む）を 対 象 に、奨 学 金 審 査 委 員 の ご 同 席 の も と、互 い の 研 究 内 容 を 共 有 し、交 流 を 深 め て い た だ く 目 的 で「奨 学 生 交 流 会」を 開 催 し て い る。令 和 6 年 度 に 開 催 を 計 画 し た が、留 学 生 の ス ケ ジ ュ ー ル を 鑑 み、令 和 7 年 度 4 月 に 開 催 す る こ と と し た。

2. 顕彰事業に関する事項

国 内 外 を 問 わ ず、仏 教 に 関 わ る 幅 広 い 分 野 で 貢 献 さ れ た 方 が た の 功 績 を 讃 え、長 年 に 亘 っ て 仏 教 伝 道 文 化 に 貢 献 の あ っ た 個 人 ま た は 団 体 に「仏 教 伝 道 文 化 賞」を、ま た 今 後 の 仏 教 伝 道 を 通 じ た 文 化 活 動 の 振 興 が、大 い に 期 待 で き る 個 人 ま た は 団 体 に「仏 教 伝 道 文 化 賞 沼 田 奨 励 賞」を 贈 呈 す る 仏 教 伝 道 文 化 賞 の 表 彰 事 業 を 行 っ て い る。

令 和 6 年 度 は、4 月 下 旬 よ り 仏 教 各 宗 派 本 山、仏 教 会、教 務 支 所、仏 教 系 学 校、海 外 各 仏 教 宗 派 教 団 本 部 等 に 約 800 通 の 推 薦 依 頼 書 を 送 付、ホ ー ム ペ ー ジ で も 周 知 を 図 り、仏 教 伝 道 文 化 賞 に 24 通、沼 田 奨 励 賞 に 19 通 の 推 薦 書 を 受 領 し た。

こ の 推 薦 書 を も と に、令 和 6 年 7 月 24 日、仏 教 伝 道 文 化 賞 選 定 委 員 会 を 開 催 し、そ れ ぞ れ 下 記 の 1 名 に 賞 を 授 与 す る 事 を 決 定、同 年 10 月 16 日、第 58 回 仏 教 伝 道 文 化 賞 贈 呈 式 を 挙 行 し、賞 金 と 記 念 の 盾 を 贈 り 表 彰 し た。

各 受 賞 者 名、受 賞 理 由 は 次 の 通 り。

・ 仏教伝道文化賞（賞金500万円）

受 賞 者：ポ ー ル ・ グ ロ ー ナ ー 氏（ヴ ェ ー ジ ニ ア 大 学 名 譽 教 授）

受 賞 理 由：長 年 に わ た り 日 本 の 文 化 と 仏 教 の 研 究 に 尽 力 し、英 語 を 通 じ て 日 本 仏 教 を 諸 外 国 に 伝 え、ま た 日 本 に お い て 若 手 研 究 者 の 育 成 に 貢 献 し た 功 績。

・ 沼田奨励賞（賞金300万円）

受 賞 者：吉 水 岳 彦 氏（浄 土 宗 光 照 院 住 職）

受 賞 理 由：仏 教 の 慈 悲 の 精 神 に 基 づ き、夜 間 の 見 廻 り を す る 等、寺 院 の 宗 教 的 社 会 的 活 動 が 高 く 評 価 さ れ て い る こ と を 讃 え て。

3. 助成事業に関する事項

当財団の事業目的と同じ目的を持ち、その活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。令和6年度は、令和6年1月16日（火）に開催された助成金審査委員会の決定に基づき、以下の法人・団体に対して、国内12,900,000円、海外€ 56,539 (9,338,058円)、£ 8,200 (1,587,356円)、SG\$ 6,500 (626,065円)、NT\$250,000 (1,264,625円)の助成を実施した。

助成先法人・団体

〈A. 沼田仏教講座新規開設及び運営維持助成金〉

※ウィーン大学哲学・教育学部哲学科は助成取り消しとなった。

〈B. 海外協力機関活動支援助成金〉

アジア仏教伝道協会、台湾仏教伝道協会

〈C. 団体支援助成金〉

日本印度学仏教学会、特定非営利活動法人鎌倉てらこや、
公益財団法人中村元東方研究所、特定非営利活動法人 全国てらこやネットワーク

〈D. 事業支援助成金 - D-1. 仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動〉

公益財団法人全国教誨師連盟、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、
一般財団法人お寺と教会の親なきあと相談室、The Buddhist Society

〈D. 事業支援助成金 - D-2. 仏教学術振興活動〉

龍谷大学龍谷ミュージアム、KoPhil（比較哲学・学際教育学会）、
Numata Center for Buddhist Studies（ハンプルク大学沼田仏教学センター）、
ハワイ仏教文化財研究会

〈D. 事業支援助成金 - D-3. 仏教文化財保護活動〉

東京藝術大学大学院（※1年目¥2,000,000、2年目¥1,500,000、3年目¥1,500,000）

〈海外・継続分〉

ウィーン大学

2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

◇仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の方々に、英語を通して仏教精神を学んでいただくことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催。平成28年度からは英語で仏教を説明できる人材を育成することを目的として「仏教英語ガイド」プログラムとして講座を実施してきたが、令和5年度より、より幅広い人達に英語を通じた仏教との出会いを提供するため、3名の講師によるチェーンレクチャー講座として

リニューアルを行った。令和6年度も同形式にて開催し、各講師には異なるテーマで講義していただき、お釈迦さまから日本仏教までを網羅できる講座とした。参加者の内訳は次の通り。

PART1からPART3まで通年申込み：会場12名、オンライン36名。

Part1のみ申込み：会場7名、オンライン4名。（通年、PART1のみ合計59名）

PART2のみ申込み：会場11名、オンライン15名。（通年、PART2のみ合計74名）

PART3のみ申込み：会場9名、オンライン23名。（通年、PART3のみ合計80名）

令和6年度の概要は以下の通り。

日程	テーマ	講師名
PART 1 第1回 4月25日(木) 第2回 5月23日(木) 第3回 6月13日(木)	英語で学ぶ「はじめての仏教」 ブッダが考えた苦しみ ブッダの目覚め ブッダの教え	大來尚順氏 (浄土真宗本願寺派 超勝寺住職、翻訳家)
PART 2 第1回 7月25日(木) 第2回 8月22日(木) 第3回 9月26日(木)	英語で学ぶ「大乘仏教」 大乘仏教とは？ 大乘仏教の悟り 大乘仏教の世界観	リサ・グランバック氏 (龍谷大学講師)
PART 3 第1回 10月10日(木) 第2回 11月14日(木) 第3回 12月12日(木)	英語で学ぶ「日本の仏教」 仏教伝来から神仏習合まで 禅と日本文化 浄土の情景	伊藤 真 氏 (東洋大学・大正大学講 師/親鸞仏教センター嘱 託研究員)

◇仏教を英語で学ぶ会 集中講座編について

令和5年度の「仏教を英語で学ぶ会」において、特に好評を博した「英語で『般若心経』」を令和6年度は集中講座として、令和7年1月22日、2月12日、3月5日、3月19日に全4回開講（会場、オンライン同時開催）した。講師に藤田一照氏（曹洞宗僧侶）を招き、英訳『般若心経』を講読していく形式で実施した。漢文と複数の英訳を比較しながら経文を読み、多角的かつ深い『般若心経』理解を受講者に提供することができた。

参加人数は会場42名、オンライン60名、計102名。

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが、「聞・思・修」一体となった仏道を自ら体験することによって、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

令和6年度は5月22日～24日の間、伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「日蓮聖人の仏道～お題目に学ぶ」をテーマに掲げ、日蓮宗総本山 身延山久遠寺(山

梨県)を会場に「第52回実践布教研究会」を開催、宗派を超えて僧侶・寺族ら14名が参集した。

開講式では持田日勇法主猊下より「御経頂戴の儀」を賜り、浜島典彦 久遠寺総務ご導師のもと唱題行を体験、望月真澄 身延山大学特任教授による講義、豊田慈證 久遠寺副総務による高座説教の実演を通して、日蓮聖人の教えを大いに学んだ。分科会では「日本仏教の未来」というテーマで参加者同士、熱心に意見を交わし、その他、水行、朝課参列、奥の院参拝等、充実した研究会となった。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として、一般の方がたを対象に、毎月1回講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。令和6年度はご講師に名取芳彦氏(もっとい不動 密蔵院住職・真言宗豊山派)、松本智量氏(延立寺前任職・浄土真宗本願寺派)を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集した。会場とオンライン同時で計10回開催し、のべ参加人数は会場参加141名、オンライン参加74名であった。また講義後には講師を囲んで茶話会(参加費500円)を開催、計10回のべ57名が参加した。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び、事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的として、主に事業経営者や社会人を対象に、毎月1回講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。令和6年度はご講師に一楽真氏(大谷大学学長)、千葉公慈氏(東北福祉大学学長)を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集。会場とオンライン同時で計10回開催し、のべ参加人数は会場参加187名、オンライン参加96名であった。また講義後に講師を囲んで懇親会(参加費1000円)を開催、計9回のべ118名が参加した。

経営に活かす会、生活に活かす会の「合同研修会」は、令和6年4月16日、「多摩ゆかりの寺院を訪ねて」と題し、仏教伝道協会元評議員の山田一真氏のご自坊 金剛院、現在、生活に活かす会ご講師の松本智量氏のご自坊 延立寺、加えて(株)翠雲堂社長 山口豊氏のガイドで鹿野大仏、塩船観音を参拝した。参加人数は33名。

◇BDKシンポジウムについて

令和6年度は下記の3回のシンポジウムを企画、実施した。

各シンポジウムの開催概要は下記の通り。

令和6年度第1回BDKシンポジウム(通算35回目)

テーマ:「ブッダはどこにいるのか?～仏塔・浄土・仏性から考える～」

開催日時:令和6年 7月19日(土) 18:30～20:30

会場:仏教伝道センタービル(会場、オンライン同時開催)

講演者:井上 陽氏(浄土真宗僧侶、相愛大学非常勤講師)

鈴木隆泰氏(日蓮宗僧侶、山口県立大学教授)

本シンポジウムでは、日本仏教で広く共有される浄土思想と仏性思想について、その源泉となったインド古来の仏塔信仰より掘り起こすべく、それぞれの専門家

を招いて講演会をおこなった。前半では、井上陽氏より「外在するブツダとの出会い」と題した講義、鈴木隆泰氏より「内なる仏を求めて」と題した講義が30分ずつ行われた。後半は、両氏による対談と質疑応答を1時間設けた。非常に専門性の高い内容であったが、二人の熱気のこもった内容に感銘を受けたという意見も多く得た。

参加人数は会場参加15名、オンライン参加85名。

令和6年度第2回BDKシンポジウム（通算36回目）

テーマ：「運がよくなる！ 仏教の教え〈仕事編〉」

開催日時：令和6年8月22日（木） 18:00～20:00

会場：リファレンス駅東ビル [福岡県博多市]（会場、オンライン同時開催）

講演者：千葉公慈氏（東北福祉大学学長・宝林寺住職）

「仏教聖典を経営に活かす会」講師の千葉公慈氏による講演会を開催。「仏教は悪しき因縁を転じていく教えであり、具体的には四無量心（慈悲喜捨）の修習、しかもそれは潜行密用、密かに人目にふれず、行いをし続けることが大切である」と解説。

参加人数は会場参加30名、オンライン参加33名。

令和6年度第3回BDKシンポジウム（通算第37回目）

テーマ：「人生のみちしるべ - 仏教者を支えた言葉 -」

開催日時：令和6年10月5日（土） 14:00～15:30

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：藤田一照氏（曹洞宗僧侶、翻訳家）

当協会発行の『みちしるべ 忍辱』の執筆者である藤田一照氏を講師にお招きし、「人生のみちしるべ—仏教者を支えた言葉」と題し、藤田氏の支えとなった言葉が紹介され、「自己を探求していれば血眼にならずとも、言葉の方から自分の前に現れてくる。周りを気にせず、自身の問題を自分なりのやり方で探求して行ってほしい」と自己の見解を述べられた。

参加人数は会場参加49名、オンライン参加43名。

◇BDK仏教ヨガ講座について

一般の方がたを対象に、日常生活の忙しさから離れて身体と心の健康を養うことを目的に、平成27年4月より月1回（毎月第1水曜日、午後7時から午後8時30分まで）「BDK仏教ヨガ講座」を開催している。講師は高野山真言宗の僧侶でヨガインストラクターのMOMO氏に依頼し、仏教の法話とヨガの実践、瞑想を交えた講座を会場参加、オンライン参加同時にて開催した。

令和6年度は4月から12月まで開催し、のべ参加人数は会場参加251名、オンライン参加110名。

◇仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」について

平成28年度より一般の方がたを対象に、日本仏教の宗派を毎月ひとつ取り上げて各宗派の基本的な教えや宗祖や著名な僧侶について解説する、仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」を開講している。

令和5年度は大阪で開催し、令和6年度は名古屋駅近辺に会場を設定し、中京圏の方々に来場いただいた。オンライン参加者が著しく増加し、多くの方に仏教を学ぶ機会を提供できた。会期は4月から11月まで、月1回（午後6時30分から午後8時30分まで）の全8回。

令和6年度ののべ参加人数は会場参加215名、オンライン参加810名であった。

令和6年度の開講概要は以下の通り。

開催日程	宗派	講師名
4月23日（火）	天台宗	小野常寛氏（天台宗普門寺住職）
5月28日（火）	真言宗	小池陽人氏（真言宗須磨寺派須磨寺寺務長）
6月25日（火）	浄土宗	工藤量導氏（大正大学専任講師）
7月30日（火）	浄土真宗	杉浦道雄氏（真宗大谷派称名寺住職）
9月3日（火）	時宗	岩田尚登氏（時宗満福寺住職）
9月24日（火）	臨済宗	野田晋明氏（臨済宗妙心寺派林昌寺副住職）
10月22日（火）	曹洞宗	宇野全智氏（曹洞宗総合研究センター常任研究員）
11月26日（火）	日蓮宗	互井観章氏（日蓮宗経王寺住職）

また、令和7年3月4日（火）に日本仏教における「すくい」と「さとり」に焦点をあて仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」in名古屋 特別編「すくいなのか、さとりなのか」として会場とオンラインで同時開催した。定例講座でも登壇いただいた宇野氏（曹洞宗）と杉浦氏（浄土真宗）に登壇いただき、対談形式で開催した。各々の宗派の目指すところを掘り下げて説明し、相互質問を繰り返すことで「すくいなのかさとりなのか」と設定した二項対立を超えて、日本の伝統仏教がさまざまな視点から悩める人びとに多様な信仰で向き合おうとしたことが参加者にも伝わったと思う。

参加人数は会場参加19名、オンライン参加49名。

◇特別坐禅会について

一般の方がたを対象に坐禅とヨガのワークショップ、精進料理を体験しながら仏教を学ぶ「特別坐禅会」を平成28年から6回にわたり開催してきた。7回目となる令和6年度は令和6年11月23日（土）に曹洞宗大本山總持寺にて開催した。ヨガ指導は綿本彰氏に依頼した。参加者はヨガ、ヨガと仏教の関係についてのお話、坐禅、精進料理（希望者のみ）を体験した。参加申込者は92名。

◇ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」について

若年層へのアプローチと仏教伝道協会の知名度の拡大をはかるため、関西圏をカバーするFM大阪にて、ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」の放送を平成30年6月より開始し、令和2年度からは放送時間を15分（毎週土曜日24時15分～24時30分）拡大し令和6年度も継続した。偶数月は僧侶、奇数月は著名人等をゲストに

招き、様々な角度から仏教を取り上げた。Xを中心にしたSNSを通じて口コミが広がり番組の認知度がさらに向上した。令和5年度よりポッドキャストの配信プラットフォーム数を増やした影響もあり、海外を含めて全国から多くのメッセージが寄せられ、好評を得ている。

◇体感する仏教 ～上野・谷中編～について

「さまざまな宗派のお寺で実践体験できる」というコンセプトのもと、ひろく一般の方がたに仏教を体験していただく「体感する仏教 ～上野・谷中編～」を、谷中を代表する名刹である天王寺と、今年創建400周年を迎えた上野の寛永寺で令和7年2月8日（土）に開催した。天王寺では、山口興順氏（天王寺住職）による天王寺と谷中の歴史についての説明や本堂の裏側にある貴重な仏像に関する解説を伺い、谷中霊園の中にある五重塔跡などもご案内いただいた。

寛永寺では、根本中堂の中で、杉谷義恭氏（寛永寺執事）から寛永寺の歴史についてのお話を伺い、徳川将軍のご霊廟を拝観した。参加人数は14名。

◇「輝け！お寺の掲示板大賞2024」について

寺院に設置されている掲示板の標語を撮影して、インターネットのSNS（XやInstagram）に投稿してもらい、反響等を参考にしながら大賞を決定する「輝け！お寺の掲示板大賞2024」を開催した。第7回目を迎えた令和6年度は7月1日から9月30日まで作品を募集。今回も投稿された作品がテレビ・ラジオ・週刊誌など数多くのメディアに取り上げられ、約3ヶ月の応募期間の間に総計3,755作品が集まった。今回の大賞は真宗大谷派超覚寺の掲示板（標語内容「望もうと望ままいとあなたは独りじゃない」）が選ばれた。

◇オンライン法話会「週刊法話ステーション」について

本企画は、令和3（2021）年1月のコロナ禍より開始。令和6年度に至るまでオンライン形式で少しでも多くの方に仏教に触れる機会を増やすべく仏教伝道の原点のひとつである“法話”を広く一般の方へお届けしてきた。毎週、各宗派の僧侶に法話をいただき、放送開始から令和7年3月末までの放送回数は計201回。総視聴者数は3,926名（ライブ視聴者平均19.5名）。また、11月からYouTubeチャンネルからもライブ配信と12時間の見逃し映像を配信し、よりさらに多くの方にご視聴いただいた。令和6年11月から令和7年3月までのYouTubeライブ視聴者数は1,713名（平均90.2名）。また、YouTubeチャンネルでのアーカイブ配信の令和6年度末の視聴回数合計は約37,960回となった。

◇ワークショップ「チベット医学と仏教」について

一般の方がたを対象に、薬草キハダの樹皮を原料とした軟膏を手作りするワークショップ型の講座を、令和6年6月29日（土）に開催。講師には日本で唯一のチベット医、小川康氏（薬剤師 森のくすり塾）を招いた。講師が医学生として暮らしたチベット仏教文化圏での体験談を織り交ぜ、チベット医学とチベット仏教の関係が不可分である事を参加者に楽しく伝えていただいた。参加者は薬草の歴史や効能を学ぶだけでなく、実際に目の前で煮出したキハダをペースト状に仕上げ、自分だけの軟膏を持ち帰った。参加人数は19名。

◇「こころを豊かにする精進料理教室～食を通じて仏教を学ぶ」について

令和6年度も令和5年度の開催に続き、食を通じて気軽に一般の方がたに仏教文化・精神に親しんでいただく目的で全4回（特別回1回の実施を含む）開催した。通常回は前後半2時間のプログラム構成で、前半は、僧侶による「精進料理とは」の法話を聴き、僧侶考案の精進料理レシピ3～5品について、各レストラン料理長による調理の実演を見学し、試食を交えながら学んだ。後半は、僧侶より食事に対する心構えについてお話をいただき、椅子坐禅や瞑想などで心を調え、前半で習ったレシピにプロのアレンジを加えた創作精進料理コースを実食した。

特別回は前後半3時間のプログラム構成で、前半は、僧侶が指導し、和室での坐蒲を使用した本格的な坐禅体験をし、参加者自身が静かに自分と向き合う時間を設けた。後半は、僧侶より食事に対する心構え、作法、精進料理の考え方などについてのお話をいただき、料理長指導のもと講師・参加者全員で調理実習3品を行い、自分たちでつくった精進料理を味わう体験をしていただいた。

全4回でのべ計128名が参加。

令和6年度の開催概要は下記の通り。

	開催日	講師名
1	9月28日（土）	通常回：浅田慈照氏（高野山真言宗僧侶） 境田剛樹氏（中国料理三田菩提樹料理長）
2	10月26日（土）	通常回：飯沼康祐氏（天台宗福昌寺副住職） 松下岳男氏（東京グランドホテル総料理長）
3	11月30日（土）	通常回：緑川明世氏（天台宗僧侶） 原野友希氏（日本料理紫水料理長）
4	3月8日（土）	特別回：河口智賢氏（曹洞宗耕運院副住職） 境田剛樹氏（中国料理三田菩提樹料理長）

◇連続講座「ブッダの隣人～インドの宗教と仏教～」について

インドで仏教とともに存在した諸宗教（隣人）について学ぶ機会を提供し、仏教史の新たな側面を紹介するため、専門家による各宗教の教義や成り立ち、仏教との関係性について学ぶ連続講座「ブッダの隣人～インドの宗教と仏教～」を開催した。オンラインを利用した受講者が多く、インドの宗教文化に関心を持つ一般層に加え、大学生や専門家も含めた、幅広い層が参加した講義となった。参加者は会場のべ67名、オンラインのべ352名であった。

令和6年度の開催概要は下記の通り

開催日	テーマ	講師名
9月2日（月）	「バラモン教」	加藤隆宏氏（東京大学准教授）
10月7日（月）	「ジャイナ教」	河崎 豊氏（東京大学助教）
10月28日（月）	「ゾロアスター教」	青木 健氏（静岡文化芸術大学教授）
12月2日（月）	「イスラム教」	保坂俊司氏（中央大学教授）

◇花まつり2024について

令和4（2022）年より仏教伝道協会の花まつり企画として、（公財）全日本仏教会が主催する「花まつりデザイン募集」の入選作品を仏教伝道センタービル1階ロビーに展示している。

令和6年度は令和6年3月22日から4月8日まで、「第7回花まつりデザイン募集」の入選作品の原画14点を展示し、（公社）全日本仏教婦人連盟より提供の「花の種」、大和証券株式会社より提供のポスター大賞作品がパッケージに印刷された「サクマドロップス」を配布した。

◇願いの一字コンテスト2025について

新年の願いを漢字一字に込めて応募するコンテストを昨年引き続き開催（公募期間：令和6年10月15日～12月15日）。

応募総数87件101文字の中から今回は、特定の人ではなく、すべての人に対する友情を意味する「慈」の一字を選定し、漢字の発表は令和7年1月6日、渡邊裕章増上寺執事、和田学英 全日本仏教会事務総長ご臨席のもと、大本山増上寺大殿前広場（東京都港区）にて書家 鈴木猛利氏により揮毫。当日16時まで増上寺境内に展示し、その後仏教伝道センタービルに展示。

2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤を確立することを目的に、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

令和6年度は、築地本願寺のパイプオルガン建替えプロジェクト（令和7年9月納品予定）を進め、令和7年1月24日、築地本願寺主催で開催された「ありがとうコンサート」では700名以上が来場した。また令和6年6月4日、音楽普及委員会を開催し、次回の仏教音楽祭の企画について話し合われた。

3. 貸し会議室事業に関する事項

◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進し、もって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献を果たしている。

令和6年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は189件であった。

II. 収益事業報告（収1）

◇収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間は一般に向けて貸与する事業を行っている。

令和6年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は158件であった。

III. 事務報告

1. 役員等に関する事項

理事・監事

(令和7年3月31日現在)

役名	氏名	常勤 非常勤 の別	就任年月日	略歴
会長 (代表理事)	木村清孝	非常勤	令和5年6月23日(再任) 令和5年6月23日 代表理事、会長再任	東京大学名誉教授
理事長 (代表理事)	沼田恵明	非常勤	令和5年6月23日(再任) 令和5年6月23日 代表理事、理事長新任	株式会社ミットヨ 代表取締役社長
理事 (業務執行 理事)	松丸壽雄	非常勤	令和6年10月7日(新任) 令和6年10月17日 業務執行理事に選定	獨協大学名誉教授
理事	門脇邦彦	非常勤	令和5年6月23日(再任)	日本空港ビルデング 株式会社名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	令和5年6月23日(再任)	元富士銀行代表取締役 常務
理事	生田忠士	非常勤	令和5年6月23日(再任)	元株式会社ミットヨ 取締役
理事	塩入亮乗	非常勤	令和5年6月23日(再任)	浅草寺本堂部
理事	逸見道郎	非常勤	令和5年6月23日(新任)	浄土寺住職
監事	中野東禅	非常勤	令和3年6月25日(再任)	竜宝寺前住職
監事	松村智司	非常勤	令和3年6月25日(再任)	元第一勧業銀行取締役

※青木晴美氏は令和6年9月30日をもって理事を退任。

評議員

(令和7年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	中川 徹	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元株式会社ミットヨ会長
評議員	平田史郎	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	国府台女子学院学院長
評議員	西本照眞	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	武蔵野大学学長
評議員	石井清純	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	駒澤大学教授 駒澤大学第31代学長
評議員	吉水千鶴子	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	筑波大学教授
評議員	渡邊清春	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	株式会社ミットヨ執行役員 財務部長
評議員	三原正資	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	元日蓮宗現代宗教研究所所長
評議員	高山久照	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	公益社団法人日本仏教保育教会理事長
評議員	佐藤和敏	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	株式会社共生代表取締役社長

顧問

(令和7年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授

※北畠典生氏は令和6年12月25日ご逝去。

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和6年6月7日（金） （令和6年度第1回通常）	<p>【決議事項】</p> <p>令和5年度事業報告および収支決算報告の件 仏教伝道センタービル建て替え計画に関する件 ウィーン大学に対する第三者研究委託事業 申込みの件 令和6年度定時評議員会開催の件</p> <p>【報告事項】</p> <p>令和5年度資産運用報告の件 貸金ベースアップの件</p>	<p>可 決 可 決 可 決 可 決 可 決</p> <p>報 告 報 告</p>
令和6年9月27日（金） （令和6年度第1回臨時）	<p>【決議事項】</p> <p>青木晴美氏の辞任と評議員会に提出する 理事候補者承認の件 青木晴美氏への常勤役員退職慰労金支給の件 評議員会決議省略の件 ウィーン大学に対する第三者研究委託事業 中止の件</p>	<p>可 決 可 決 可 決 可 決</p>
みなし決議に関する 理事会	<p>【決議事項】</p> <p>業務執行理事選定の件 （決議があったとみなされた日： 令和6年10月17日）</p>	<p>可 決</p>
令和6年11月19日（火） （令和6年度第2回通常）	<p>【決議事項】</p> <p>海外協力機関活動支援助成金の件 貸室兼貸借契約解除に伴う補償金の件 仏教伝道センタービル建て替え計画に関する件</p> <p>【報告事項】</p> <p>令和5（2023）年度助成金事業実施評価 報告の件 令和6（2024）年度分助成金交付申請臨時審査 代表理事の職務の執行の状況の報告 諸規則諸規程の改定の件</p>	<p>可 決 可 決 可 決</p> <p>報 告 報 告 報 告 報 告</p>

令和6年度事業報告 附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和7年6月
公益財団法人仏教伝道協会
代表理事（理事長） 沼田恵明